

銀子披露に付本願寺御印書

Handwritten calligraphy in cursive style, likely a historical document or letter.

申十二月

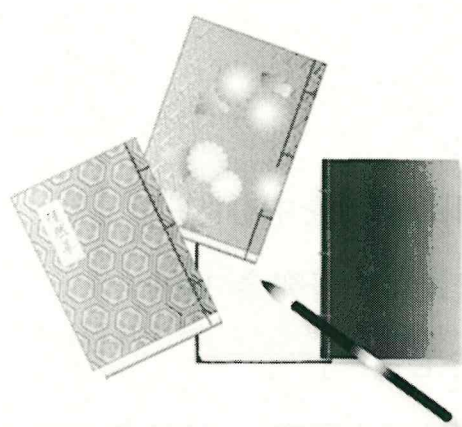
Vertical text on the left side of the calligraphy, possibly a signature or date.

銀子披露に付本願寺御印書 申 12 月

第86回 市史講座

# 古文書講座

## 「古文書を読んでみよう」



講師：袖吉 正樹氏

(金沢市立玉川図書館担当館長補佐)

日時：平成 31 年 2 月 16 日(土) 14 時～

会場：小松市公会堂 1 階 第 1・2 会議室

『古文書講座』

「古文書を読んでみよう」

古文書を読む

(1) 古文書の文体の特徴に慣れる

- ・ 仮名混じり漢文体 (和漢混交文体)  
\* 純粋な漢文ではなく、日本で造られた用語や用法によるものである。
- ・ 返読文字 (へんどくもじ) … 下の文字を読んでから、上の文字に返って読む
- ・ 送り仮名は書かれない
- ・ 候文 (そうろうぶん) … 文末が「候」という言葉で終る。

|                                                   |                           |                   |
|---------------------------------------------------|---------------------------|-------------------|
| ・ 乍恐<br>(おそれながら)                                  | ・ 為<br>(す・させ・として・ため・なす)   | ・ 依之<br>(これにより)   |
| ・ 如此・如斯<br>(この通り)                                 | ・ 令皆済候<br>[皆済される]         | ・ 被<br>[受身・尊敬・可能] |
| ・ 可被下候<br>[…してください]                               | ・ 難有可奉存候<br>[ありがたく存じ上げます] |                   |
| ・ 在(有)之<br>[…がある、存在する]                            | ・ 被遊・被為遊<br>[…なさる]        | ・ 被仰<br>[めいじられ]   |
| ・ 全自火二紛無御座候旨申之候<br>[まったく自火であることに間違いない趣旨のことを申しました] |                           |                   |
| ・ 預り置不申候旨被 仰渡候<br>[預かっておかまいようにと命じられました]           |                           |                   |
| ・ 相(あい)<br>・ 打(うち)<br>・ 御(ご・お・おん)<br>・ 指・差(さし)    |                           |                   |
| ・ 間敷(まじく・き)<br>・ 兼(かね)                            | ・ 宛・充(ずつ)<br>・ 度(たし)      |                   |

(2) その時代の用語・固有名詞・表記の仕方などを知る

- ・ 接続詞・副詞・形容詞・形容動詞など
- ・ 変体仮名…江(え)・而(て)・茂(も)・与(と)・者(は)・歟(か)・而已(のみ)
- ・ 異体字
- ・ 合字
- ・ 尊敬の表記 … 闕字 (文字と文字の間を一字分あける)、平出 (改行する)  
抬頭 (改行し、その一番目の文字を他行より1字高く書く)
- ・ 接頭語 … ある語の上について、語調を整えたり意味を強めたり添えたりする。
- ・ 接尾語 … 名詞や動詞、語句の末尾について、意味を添える単語

|                                                |                        |                      |                        |
|------------------------------------------------|------------------------|----------------------|------------------------|
| ・ 乍併<br>[しかしながら]                               | ・ 然上者<br>[この上は]        | ・ 然者<br>[だから、さて]     | ・ 加之<br>[そればかりでなく]     |
| ・ 井<br>[および、かつ]                                | ・ 尤<br>[ただし]           | ・ 聊(も)<br>[すこしも]     | ・ 然所(処)<br>[ところで、ところが] |
| ・ 弥以<br>[いよいよもって]                              | ・ 決而<br>[けっして]         | ・ 将又<br>[はたまた]       | ・ 篤与<br>[とくと]          |
| ・ 縦・仮令<br>[もし]                                 | ・ 則<br>[すなわち]          | ・ 別而<br>[べっして]       | ・ 宜敷<br>[よろしく]         |
| ・ 相(あい)<br>・ 打(うち)<br>・ 御(ご・お・おん)<br>・ 指・差(さし) | ・ 間敷(まじく・き)<br>・ 兼(かね) | ・ 宛・充(ずつ)<br>・ 度(たし) |                        |

(3) 字典の活用

- ・ 字典の用例を読む。
- ・ 部首のくずしを覚える。
- \* 辞書に載っているくずし方が全てではありません!



亡父、武蔵守知、角百、松石

貞永  
別帝 事人、扶持、年人、金、云、納

老、道、の、件

大隅

元禄十二年十二月廿二日尚連  
友

紅雲園

月珠

草高  
一百石

越中物成  
産中三浦

先六ツ三ッ

草高  
一拾石

石部  
荻原村

先六ツ三ッ

草高  
一拾石三斗

石部  
横濱村

先五ツ四ッ

草高  
一拾石三斗

同部  
丸田村

先六ツ

草高合百三拾石三斗三合

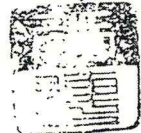
定納五拾九石

折紙高百拾石  
石部 越中物成  
産中三浦

右公義 所定更銀五石

可收納者也

元禄十二年十二月廿二日



河内國守



福之

人方寺後偏相續  
願通及寺上矣則  
其成 許元法後居能  
相續為名施有年  
誦法義七世の役お尋  
累光相  
許寺法通相續  
所安の事一也

池永大陽人

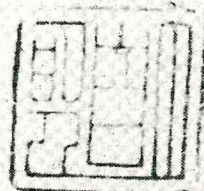
天保九年戊子  
正月廿九日  
三省  
**五**

能全國康治  
能也即村

宗念寺僧英  
門徒中

天保9年(1838)正月 住持相續願御免に付本願寺坊官達書





銀子披露に付本願寺御印書

江戸後醍醐天皇  
多岐病友志候神宮  
方 燈籠より江我  
各 夢中 夢中 夢中  
後 謝 様 今 夢中  
折 要 夢中 夢中  
後 殿 夢中 夢中

申 十二月

銀子披露に付

本願寺

申 12 月 銀子披露に付本願寺御印書



永代賣渡中山之契

一志口

郊石

五分

伐算

山残

麻子知り山

右私賣半之化仕所收納年没不  
此付其覺方便及老等役相影右  
之山立元永代賣仕伐算後收納  
没所賣所不賣山仕所老等以山  
付子と孫と云旨所角中分仕所時  
未納立合算及時明之山為後日信  
合徳久仕所知件

安永元年辰土月

徳主村人

平定

田村修人  
平定

徳主村

永代賣渡

右通り永代賣渡仕所不賣山仕所  
力主私及真書仕所知件

徳主村人

平定

田村修人

平定

田村修人

平定